

ラムサール条約湿地登録の日記念●講演会

渡良瀬遊水地・ 湿地再生でできること 世界初の大規模実験場で

日時●**9月4日(日)** 13:30~16:30 (開場 13:00)

場所●**栃木市藤岡遊水池会館**

(東武日光線藤岡駅より徒歩 15分)

参加費無料



アオモンイトトンボ 幼虫
撮影 向井康夫



ヒメアメンボ
撮影 向井康夫



コムズムシ
撮影 向井康夫



ゴマフガムシ
撮影 向井康夫



トネハナヤスリ

渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地に登録されてから4年になります。このラムサール湿地への登録は、その2年前に策定された国土交通省の「湿地再生基本計画」に基づいて、遊水地の自然豊かな湿地を再生することが前提になっています。この再生事業は「これまで行ったことのない大規模な湿地再生実験であり、その成否が世界中から注目されている」と専門家は述べています。
湿地再生事業は6年経ちます。ここで立ち止まり、根本から事業を見直して、遊水地の自然を蘇らせるにはどのような取り組みが必要かについて、お二人の有識者にご講演をいただきます。



ハンゲショウ
撮影 野本定司



イヌセンブリ
絶滅危惧Ⅱ類
撮影 川俣將世



ホヅバオグルマ
絶滅危惧Ⅱ類
撮影 川俣將世

I 渡良瀬遊水池を再生する 価値創造的な取り組みとは



講師●**飯島 博氏**

NPO法人 アサザ基金代表理事/わたらせ未来基金前代表世話人

【プロフィール】1995年に始まった霞ヶ浦アサザプロジェクトには、延べ28万人が参加。市民団体や企業、行政、学校など多様な主体が参加する広域ネットワーク事業へと発展した。近年は、地域資源を活用したビジネスモデルを提案し、社会的企業家としても注目されている。

II 水生生物から見た渡良瀬遊水地、 生きものたちと遊ぶ



講師●**向井康夫氏**

金沢大学 環日本海域環境研究センター 外来研究員

【プロフィール】京都大学大学院地球環境学・研究員、東北大学大学院生命科学研究所・研究員をへて現在にいたる。宮城県在住。著書「絵で調べる 田んぼの生きもの」(文一総合出版)。

III 質疑応答・意見交換

主催●**渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会**

〒328-0053 栃木県栃木市片柳町4-16-1 猿山弘子方
TEL&FAX 0282-23-1078 <http://www.watarase-kyougikai.org>

協力●**栃木市**

後援●**ラムサール湿地ネットわたらせ**

この活動は「栃木市民活動推進事業 “とちぎ夢ファーレ”」の助成によります

国土交通省が「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」（2010年3月）に基づき、第二調節池で湿地再生実験地の掘削を進めてきています。すでに11箇所の実験地が造成されました。

【渡良瀬遊水地】



【第二調節池で進行中の湿地再生実験地】



2015年6月の「市民による生きもの調査（植物班）」（住民協議会では2013年から市民の自主参加により、湿地再生実験地で植物、昆虫、野鳥、水生生物等の調査を続けています。）

上より野鳥班調査、掘削地を土手から眺める、調査後の報告会